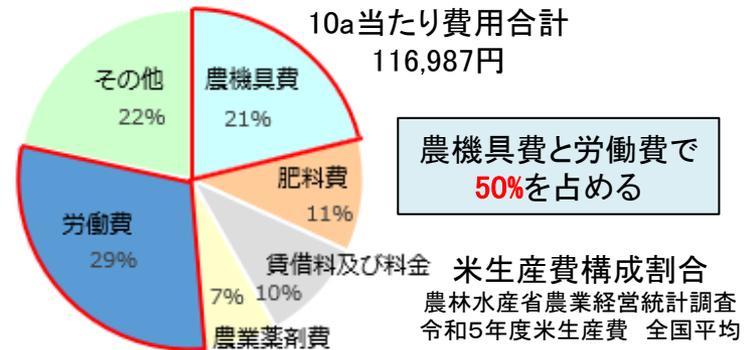


- 畑状態の田んぼに種子をまき、出芽が揃った後に入水する栽培方法です。
- 春作業において労力のネックとなる代かきや苗運びが不要となり、省力化が可能です。

背景・ねらい

- 米の生産費は、労働費と農機具費が半分を占めています。この労働費・農機具費の削減なくして低コスト化は難しい。
- 労働費・農機具費を削減するには、高速作業が可能な機械で作業時間を削減するとともに、機械を様々な作目にフル活用する必要があります。
- 作業の高速化、機械の汎用化、収量の確保により、低コスト化を図ります。



特徴

- 大規模畑作で麦用に使われている播種機「グレーンドリル」や耕起に「スタブルカルチ(チゼルプラウ)」などを用いる高速作業体系です。
- ケンブリッジローラなどによる鎮圧作業を、播種床造成や播種後に行うことで、安定した苗立ちが得られ、漏水対策になります。
- プラウ耕と鎮圧を行う本乾田直播体系では移植体系で不可欠な耕盤盤層が不要で、排水性が改善されるため、麦・大豆などとの輪作に適する「輪作稲作」です。



詳細情報

農研機構「乾田直播栽培技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/dry-seeding_rice_v3.1.pdf